

リーフレット用掲載文章
2024年7月15日
谷口 洸

Blue in Green

今まで僕はほんの少しだけ風光明媚な水辺に住んできた。

中高時代は愛知県蒲郡市の海辺の寮で過ごした。この町は「愛知の小鎌倉」と呼ばれることもある、リゾート施設が点在する観光都市である。目の前に広がる三河湾は波が穏やかで、週末の晴れた日にはヨットが行き交う様が時折見られる。多くの地方都市と同じように人口が減り、ゆっくりと錆びれていっているものの、蒲郡は暖かく居心地の良い場所だ。

そして今僕は「北の鎌倉」とも知られた千葉県我孫子市の手賀沼の辺に住んでいる。手賀沼周辺は大正から昭和初期に別荘地として栄えた。多くの文化人から愛され、志賀直哉が「城の崎にて」を執筆したのもこの地である。当の手賀沼は今では全国五本の指に入る水質の悪い沼となっていたが、それでも水鳥の飛び交う静かな湖畔の町である。

やはり僕の住む町は、ちょっとだけ良い町のような。ただし彼らはどんなに頑張っても鎌倉には勝てないのだろう。これらの町は物悲しさの中に、可愛らしさがあるように感じる。まるで自分のこれまでの人生のようだとも。

そして僕は水辺が好きなのだ。絶え間なく寄せては返す静かで細かい波と、水面に映る空や雲が、僕の制作の動機でありモチーフだ。淋しく、愛おしい水辺の町を歩くような感覚で作品を観ていただけたらと思います。